ご挨拶

精神科訪問看護は、地域で生活する精神障がい者の方々に対して、服薬や通院等の医療の継続とセルフケアや他者との関係、活動、休息等の生活活動がその人らしく主体的に行動出来ることを目標にしながら、安心して地域生活が営めるように支援していくことなどが役割とされています。今後も増え続ける精神障がい者の方々やそのご家族に対して、ニーズを捉え一人ひとりの期待に応えるためには、更なる質の向上やブラッシュアップが求められます。今回のフォーラムでは、「精神科訪問看護の未来を創造する」をテーマに掲げ、参加いただく方々が、さらに士気が高まり、明日からの支援に活かすことができる貴重な機会になることを祈念いたします。

フォーラム実行委員長　松本和彦

講師紹介

【 講演 】精神疾患をもつ人への訪問看護～支援困難にしないための7つの原則～

小瀬古伸幸 先生(訪問看護ステーションみのり奈良 統括所長)

精神科救急病棟に勤務を経て、現在の訪問看護ステーションみのりに入職。精神科訪問看護の実践の傍ら、訪問型の家族看護も行っている。精神科認定看護師、WRAPファシリテーター、Familyworkプラクショナーなどとしても活躍中。著書に「精神疾患をもつ人を、病院でない所で支援するときにまず読む本 」（医学書院）
「人生をゆるめたら自分のことが好きになった」（KADOKAWA）などがある。

【 講演 】オープンダイアローグと精神科訪問看護

森川すいめい 先生(精神科医/鍼灸師/オープンダイアローグトレーナー)

2つのクリニックで訪問診療を行い、日々患者と対話を行う傍ら、ホームレス状態にある人を支援するNPO法人「TENOHASI」を立ち上げ、豊島区で医療支援活動を行っている。オープンダイアローグ国際トレーナー資格を日本の医師としては初めて取得。著書に「漂流ホームレス社会」（朝日文庫）、「その島のひとたちは、ひとの話をきかない」（青土社）などがある。

【 講演 】ひきこもる人の心が動く家族支援と精神科訪問看護

山根 俊恵 先生(山口大学大学院医学系研究科保健学専攻 教授)

大学で教鞭を執りながら、別に法人を立ち上げ、伴走型ひきこもり支援「山根モデル」を開発し、相談・家族心理教育・アウトリーチ・居場所支援・社会参加支援を一体的に行っている。著書に「ひきこもり"心の距離を縮める"コミュニケーションの方法」（中央法規出版）「チームで取り組むケアマネ・医療・福祉職のための精神疾患ガイド」（中央法規出版）などがある。

【 症例発表 】座長 宮本満寛 先生(らいず訪問看護ステーション代表取締役)

メンタル訪問看護ステーションconamu（山口県）
訪問看護ステーションReaf 久留米（福岡県）
プラスワン訪問看護ステーション佐賀（佐賀県）

【 WRAP体験 ～Wellness Recovery Action Plan～ 】

藤田茂治 先生(訪問看護ステーションりすたーと 所長)

リカバリーのキーコンセプトにある「希望」「主体性」「学ぶこと」「自分を権利擁護すること」「サポート」など、精神科訪問看護にWRAPを取り入れ利用者の援助を行っている。

矢山壮 先生(関西医科大学看護学部看護学研究科 准教授)

精神科訪問看護の実践をエビデンスに。そして、エビデンスを精神科訪問看護の実践にという考えのもと、訪問看護ステーションと共同研究を行ったり、WRAPファシリテーターとして全国で活躍している。

株式会社 ハートプラス
プラスワン訪問看護ステーション佐賀
佐賀県佐賀市鍋島1丁目8-3 ☎ 0952-97-9913
https:hct-plusone.jp
プラスワン訪問看護 検索